

令和3年度第1回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会
議事概要

1. 日時

令和3(2021)年9月8日(水) 10:00~11:30

2. 会議形式

オンラインによる Web 会議(栃木県庁 本館9階 会議室3)

3. 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

4. 議事

- (1) 走行・利用環境の整備状況
- (2) 情報発信・広報
- (3) モデルルート活用事例

5. 議事概要

- ・事務局から走行・利用環境の整備状況を報告した。
- ・事務局から情報発信・広報の対応状況を報告し、その後質疑応答を行った。
- ・各委員よりモデルルート活用事例を報告した。

6. 委員の主な意見

- (1) 走行・利用環境の整備状況
- (2) 情報発信・広報

○篠原座長

- ・市町における観光の政策や、民間事業者の情報をしっかり取りながら連携すべきである。
- ・まずはとちぎ旅ネットHPでの発信のみとのことだが、現時点では「栃木県 サイクルルート」で検索してもとちぎ旅ネットにヒットしない。目的型のお客様に対する発信がポイントとなるので、今後の課題である。

○柿沼委員

- ・如何に広く目にとまる情報を発信できるか、インフラ整備以上に大切である。とちぎ旅ネットへの掲載も有効だが、全国のサイクリストのうち6割は首都圏にいたので、そこに届くようにしてほしい。
- ・サイクリスト向けのwebサイトも様々ある。主要なサイトに取り扱ってもらえれば効果的である。
- ・ナス1の客層としては、上級者から初級者までクロスオーバーする。アップダウンの多い

エリアもあり、上級者向けの醍醐味でもある一方、ビギナーにとっては若干ハードなコースという印象である。Eバイクの活用や、ファミリー層向けのパートを区切ってあげることで、レベルに応じて楽しめるのではないかと。

○篠原座長

- ・どの区間をファミリー層、上級者層とするかの分析や、楽しみ方の議論を、有識者や地元等で構成したワーキングにて実施すべきである。
- ・各市町独自のルートも載せるなど、ナス1と一体的にまとめてほしい。

○大森委員

- ・路面表示（誘導）が小さく感じる。
- ・マップで、八方が原に至るルートから引き出しで起伏を表現しているが分かりづらい。

○事務局

- ・路面表示は国のナショナルサイクルルートの基準に準じている。起伏の表現は修正する。

○高根沢委員

- ・路面表示（矢羽根）について、サイクリストの中でも話題になっている。何を示すものなのか情報発信が未だされていない。ストーリーを作って情報発信をしてほしい。
- ・顧客の声を拾い分析することが大切である。顧客であるサイクリストがどう感じたか、各市町と連携し情報収集の方法も考えて進めることで、マップ等がより充実する。ワークショップなどにより情報や意見を集約し生かす流れができるとよい。

○篠原座長

- ・情報発信が遅れている。県と民間レベルの打合せをお願いしたい。

○事務局

走行環境整備が完了した段階で情報発信を行う。

○高藤委員

- ・路面表示（矢羽根）について、サイクリスト以外にも分かるよう周知してほしい。

○佃委員

- ・鉄道との連携の事例としては、千葉県内で実施しているサイクルトレイン（BB ベース）があり、出発地の両国駅において使われていないホームを活用している。また、水郡線でもサイクルトレインを試行している。栃木県で何ができるか、社内で検討していきたい。
- ・情報発信については、観光案内掲示等で協力できる部分はあると思う。

(3) モデルルートの活用について

○松山氏（菅俣委員代理）

- ・ぐるとち2021及び通年誘客事業について

○篠原座長

- ・ベースであるナス1と関連する栃木県のイベントとして、情報発信できるようお願いしたい。

○佐々木氏（鱒淵委員代理）

- ・サイクルツーリズム推進事業について地域間の競争に負けないようPRしている。サイクル関係の海外インフルエンサーを招請し、情報発信を行う。

○斎藤氏（矢板市 高橋委員代理）

- ・これまでの取り組みにおいて、行政主導で民間事業者との連携が不十分であった。現在、市観光協会と連携し自転車施策を進めている。
- ・コロナ禍によりツアーが中止となったが、10月実施分について募集中。オンラインツアーも検討中。物産協会補助金を活用している。
- ・モデルルートの発着点にレンタサイクルを配置している。
- ・八方ヶ原ヒルクライムレースには例年800人が参加。練習としても多くの方が訪れている。コロナ禍で中止となっているが、今後期間開催など新たな開催方法を検討している。

○若杉委員

- ・那須塩原駅近くの拠点にて、クロスバイクのレンタル、シャワールームの貸し出し、選手によるガイド事業を実施中。ヘビーユーザー層が厚いが、ライト層向けのガイド事業も展開していく。
- ・拠点に併設するカフェで、工具の貸し出しや、那須地域の案内も行っている。

○高橋委員

- ・ナス1、ぐるとちサイクルフォトラリー、共にレベル分けが気になる。マップの色分けは難易度を表現しているのか？フォトラリーのテーマはあるか？
- ・150kmという距離は一般的なサイクリストだと何時間かかるのか？顧客や旅行会社が計画を立てるためには必要な情報である。
- ・例えば「富士山に登る」のような目的があると商品として分かりやすい。茨城県における海浜公園のような写真の映えるスポットは印象に残るので、そのようなスポットを掘り起こしてPRし、そこから魅力を広げてもらえるように。

○松山氏（菅俣委員代理）

- ・フォトラリーのテーマは特に設定していない。

○事務局

- ・色分けは市町区分となっている。勾配は示しているが、難易度が分かりづらい。所要時間やレベルに応じた区分の見せ方と併せて改善の余地があると考えている。

○島田氏（井上委員代理）

- ・国における成功事例の提供など、協力していきたい。

○矢板土木

- ・市町広報誌への掲載について、事務局で定型の掲載文を作成してほしい。
- ・マップは興味を惹くような斬新なものを作ってほしい。
- ・県外からの誘客を考えているのであれば、マップの配布先として、JTB や JR の協力を仰いでは如何か？

7. 総括

○篠原座長

- ・関係者が知恵を絞り意見交換ができる土俵ができた点ではまず成功だが、未だ大雑把な話の段階である。どのように市民を巻き込み、民力を入れた形に仕上げているか、かゆいところに手が届くような仕組みづくりが課題である。
- ・現状でいくらPRしても他との競争に勝てない。
- ・県北協議会の事例が、今年度立ち上げる県東、県南協議会の道しるべとなるよう、内容を充実させてほしい。
- ・有識者、市町関係者によるワーキングを立ち上げ、議論をつなげてほしい。
- ・顧客属性（初級者～上級者など）に応じたコース等のセグメントについて、県の方にアイデアを提供してほしい。
- ・ハード整備は交通政策課が進めているのは分かるが、今後このルートを活用して観光の全体構想の中で販売促進を進めるのも交通政策課なのか？

○谷委員

- ・組織改編に関わるものであり、議論を進めているところであるが、当面は交通政策課で扱うこととなる。

○篠原座長

- ・訴求の観点においては観光部局になると思う。今後の推進体制の整理もスピード感を持って行ってほしい。

—以上—